

子どもたちが

「平和大使」として被爆地

を訪れ、現地で行われる平和学習に参加する牛久市平和使節派遣事業。市内中学校・義務教育学校の代表生徒18人（2年生）が、文化芸術課の職員（学芸員）による「戦争の時代と牛久の講話を聞く」とともに、7月26日から2泊3日で広島を訪問しました。広島では、平和記念公園やさまざまな資料館の見学、被爆者による被爆体験講話等を通して戦争の悲惨さや平和と命の尊さなどについてそれぞれ考えを深めました。生徒たちが「見て・聴いて・感じたこと」の一部をここで紹介します。



問 生涯学習課 内線3362、3364

令和
5年度

牛久市中学生平和使節団



▲本川小学校平和資料館にて、原爆投下後の学校や子どもたちの生活の様子について話を聞く生徒たち

牛久第一
中学校

福田 絢さん

平和記念公園や平和資料館、たくさんの慰霊碑には、原爆犠牲者の冥福を祈るとともに、二度と戦争をしない、繰り返してはいけないという広島の人々の思いが込められていることがわかりました。78年前の8月6日の惨劇を過去のことにせず、事実と向き合い、未来へ繋ぐことが大切だと思いました。

牛久第一
中学校

澤田 悠太郎さん

私は、広島を訪問し戦争の愚かさを感じ、二度と同じ惨劇を繰り返してはいけないと思いました。しかし、今でも核兵器は無くならず、悲しい歴史が繰り返される可能性はあります。私は、見聞してきたことを他者に伝えみんなと平和な未来にするにはどうしたらよいか、意見を交流していきたいと思います。

牛久第一
中学校

雑賀 紫音さん

当時の広島の人たちはいつも通りの当たり前だった日を突然壊されました。原爆の投下によってたくさんの人が亡くなり、その後の人生も原爆とともにあって病気や差別にとっても苦しんだそうです。今の自分はとても幸せだということ、命を大切にすることを忘れず生きていかなければいけないと思いました。

牛久第三
中学校

山崎 愛奈さん

私は、今回広島を訪問した意味と命、平和の尊さを深く考えました。78年前の広島で一瞬にして夢を失った当時の被爆者の方の最後の願いとは「戦争が二度と起きないこと」だと私なりに捉えました。平和への誓いをより正確にさまざまな繋がりを持った人々に発信することが私に託された役目だと実感しました。

牛久第三
中学校

前田 桔子さん

今回私は広島に行くことで学校でも学べない様な戦争の恐ろしさを知ることができ、今まで特に考えていなかった平和が自らの意思になりました。これまでの私のように戦争についての理解が浅い人にも今回学んだことを伝え、少しでも平和をつくる力になればいいなと思います。

牛久第三
中学校

本多 彩夏さん

私は、実際に広島を訪れた事で、写真を見たり教科書を読むだけでは分からない事をたくさん学ぶことが出来ました。「戦争をしてはいけない」という言葉が今も伝承されているからこそ、私たちは平和に生かされているのだと思いました。繋いでもらった平和な世界が続くよう、今度は私が伝えていきたいです。

牛久第一
中学校

見越 文香さん

被爆体験者の梶本さんは「忘れられた歴史は繰り返される」とおっしゃっていました。平和な世の中に生まれたからこそ、78年前に起きたことを忘れず、多くの人に伝えることが大切だと思いました。原子爆弾や戦争の恐ろしさが無い、平和な世界をつくる必要性を改めて考えることができました。

牛久南
中学校

岡村 紗彩さん

私が今回、広島を訪問し、原爆ドームを始めとした被爆建造物を見て、戦争は2度としてはいけない行為だと改めて思いました。

また、最近は戦争の事を詳しく知らない人が増えていると感じます。そのためにも、まずは身近なところから戦争のことを伝えていく事が、私たちに出来る事だと思いました。

下根
中学校

渡邊 歌凜さん

私は広島訪問で特に印象に残ったことは資料館に展示されていた被爆後の日常品の数々です。たった一発の原爆で人々の命と当たり前の日常が失われたことを知り、戦争をしても誰も幸せに出来ないと思いました。このようなことが二度とくり返されないように使節団として多くの人に伝えていきたいです。

下根
中学校

豊田 咲来さん

私が今回の研修を終えて、一番印象に残っているのは、被爆者の方から講話をいただいた時のことです。78年前の広島悲劇、平和の大切さ、原子爆弾の恐ろしさについて知ることが出来ました。そして、平和について考え、広島でどんなことが起こったのかをみんなに知ってもらいたいと思いました。

下根
中学校

紫藤 千咲さん

私は平和使節団の活動を通して当時の広島の様子を学びました。また、戦争の恐ろしさや平和の尊さを改めて知ることができました。特に、被爆体験者の梶本さんのお話はとても印象に残りました。この経験を生かして学んだことを伝えていき、戦争のない平和な世界の実現に貢献したいと思いました。

ひたち野
うしく中学校

新海 綾さん

今回広島を訪問して、改めて平和の大切さを知ることができました。実際に原爆ドームや当時の資料を見て原爆の悲惨さを学びました。今後、学んだことを身近な人に伝え、一人でも多くの人に知ってほしいです。そして8月6日の出来事が人々の記憶からなくなることがないようにしていきたいです。

ひたち野
うしく中学校

浅野 桜姫さん

私は平和使節団の訪問で、戦争の恐ろしさや平和の大切さを改めて学ぶことができました。戦争が引き起こす悲惨さから、決して目をそらしてはならないのだと感じました。繰り返してはならない、という被爆者の方々の思いを私たちの行動で繋いでいき、平和が生み出す幸せな社会を創っていきたいです。

牛久南
中学校

宮田 晴帆さん

僕は広島を訪問して、平和の大切さを知りました。被爆体験者の方の話聞いて、戦争の悲惨さを知ることができました。また、原爆ドームや平和資料館を見て、原爆の恐ろしさを感じました。これから、被爆体験者の皆さんが言っていた命を大切にすることを、忘れずに生きていこうと思います。

▼国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で行われた被爆体験者・梶本淑子さんの講話を聴講。



▲ガイドさんの解説を聞きながら原爆ドーム・広島平和記念公園を見学。

おくの義務
教育学校

秋葉 友希さん

僕が広島を訪れ、印象に残っていることは、実際に被爆した方のお話です。被爆者の高齢化が進み、語れる方が少ない中、熱心に当時の様子を語って下さいました。お話をうかがい、核兵器の使用は二度と繰り返してはいけないと思いました。今後は、広島で学んだことを周囲の人たちへ伝えていきます。

ひたち野
うしく中学校

森下 祐貴さん

私は広島を訪問して、被爆体験者の方々の話を聞き、戦争の恐ろしさ、平和の尊さ、命の大切さを改めて感じることができました。そして、このような悲劇を起こさないために、今回学んだことを少しでも多くの人に伝え、平和の大切さを知らせる事が私たちの役目だと思いました。

ひたち野
うしく中学校

三吉 真実さん

広島を訪問し、今の日常生活が大変幸せであると気づかされました。そのため、「戦争を繰り返してはいけない」と強く思うことができました。原爆について伝えるという被爆体験者の行動を受け継ぎ、広めていくべきだと思います。日々の幸せを大切にしていきたいです。

広島訪問で学んだことを発表

10月19日～22日の4日間、市民文化祭の小中学校作品展にて、広島訪問で学んだことを多くの市民の皆さまに見ていただく機会を設けることができました。期間中は多くの人が訪れ、生徒たちが制作したスライドなどに見入っていました。
今後は、各中学校における「校内平和の集い」等でも発表していきます。



おくの義務
教育学校

阿部 景虎さん

僕が広島訪問を通して印象に残ったのは、核兵器の悲惨さです。核兵器は、たった一発で都市が一瞬で焼け野原になり、多くの人々の命を奪う力を持っています。このことから、私たちは、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを伝え、平和な世界を少しずつ実現していかなくてはいけないと思いました。